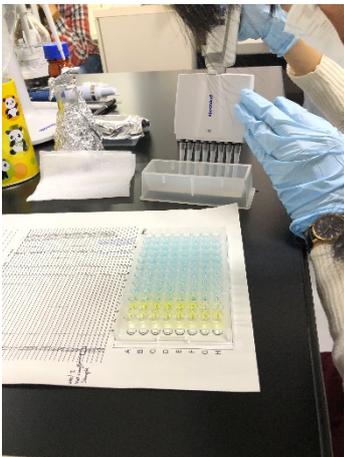


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和元年 12 月 20 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	横山実玖歩

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
京都府京都市、京都大学野生動物研究センター
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
ゲノム実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
令和元年 11 月 25 日 ~ 令和元年 11 月 29 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京都大学野生動物研究センター、木下こづえ助教
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
本実習では屋久島実習で採取したシカの糞に含まれるホルモンの濃度を計測する実験をおこなった。スケジュールは以下の通りであった。 11/25 オリエンテーション 11/26-28 サンプルの準備 11/29 ホルモン濃度の読み取り、ポスター作成 ホルモン濃度の測定は初めての経験であったが、基礎的なところから丁寧にご指導いただき、理解しながら一つひとつ手順を進めていくことができた。ホルモンを抽出し、濃度を測定するためには何日もかかる複雑な手順を経なければならず決して簡単にできることではないが、極めて少量の糞からでも正確に濃度を測ることができることを知り驚いた。性ホルモンだけではなくストレスホルモンなどの分析も行われているそうなので、今後研究を進めていく上で必要になれば活用していきたいと考える。また結果は予想した通りにはならなかったが、それまでの研究の結果を裏付ける形になり、シカの性ホルモンのサイクルについてはさらに謎が深まった。この実験で得られた結果が、今後ヤクシカのフィールド研究に新たな視点を与えるものになれば幸いである。

図1 ELISAによってホルモン濃度を測定する過程 (撮影：Gris Vanessa)
6. その他 (特記事項など)
本実習中、指導いただきました木下こづえ助教にお礼申し上げます。また本実習には PWS の支援を受けて参加しました。感謝申し上げます。